

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276200207		
法人名	有限会社 ワイエイチ企画		
事業所名	グループホーム サンシテイ掛川	ユニット名	1F
所在地	静岡県掛川市杉谷南1丁目15番地の13		
自己評価作成日	平成22年9月18日	評価結果市町村受理日	平成22年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2276200207&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成22年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心で安全な生活が送れるように職員一丸となり支援するように心掛けている。その為、ヒヤリハット・事故報告書の数が減っている。そして、職員は入居者や家族との馴染みの関係を築き大切にし入居者が安全で安心して暮らせるように支援している。又、地域の祭典・防災訓練の参加・ご近所での買い物・散歩時ご近所との挨拶・日々の会話を通して、、地域との交流の場を増やし、入居者が地域の一員として生活できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、「一人ひとりが、尊厳を保ちながら地域の中で、ゆったり・穏やかに・楽しく、当たり前の生活を送ることができるよう支援する」という事業目的を全職員が理解できるよう教育しており、それが日々の支援に反映されている。具体的実践として、①隣接の畑での“季節の野菜”の収穫とそれを食す楽しみの提供、②ゆったりと会話を楽しめる入浴支援、③排泄の自立支援、④日常的な散歩や買い物等外出の機会の提供、⑤併設デイサービス利用者との交流などが展開されている。長期利用者の身体機能の低下に直面しているが、関係者で連携し、丁寧に対応している。開放的で安心・安全な生活環境を作ろうとする職員の姿勢がうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎朝朝礼にて理念を唱和し共有するようにしている。	理念の唱和と共に「あなたならどうして欲しいか考えて」という管理者の日頃の教育により、職員に理念が浸透しており、利用者が日常生活をゆったり穏やかに送ることができ安心感のある、住みよい場所になっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り時、地域の参加者に対し、ホームの前で接待を行っている。地域の防災訓練にも職員、入居者共々、積極的に参加している。	地域の祭りやホームの祭りには近隣住民と一緒に楽しんでいる。断水時に近くの施設から飲水を分けてもらったことを機に区長の働きかけで同報無線の取り付けが実現するなど、地域との結びつきを深める努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在は行われていないが、これから地域との交流の意味を含め、実践していこうと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会合で話された事については参考意見をサービス向上に目指している。	年4回開催され、日常の活動報告、地域とのかわりなどについて、区長・地域包括支援センター・家族・市職員など、それぞれの立場同士で情報交換や話し合いがなされている。会議では、家族にも必ず一言ずつ発言を求めている。	2ヶ月に一度会議を開催し、交流の機会を増やして、家族や他の参加者からの意見・情報の収集に努めることにより、さらに地域との関係が深まることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々の交流はあまりないが特別なことが起こった場合、随時連絡を取り協力関係を築けるように取り組んでいる。	市が主催するサービス提供連絡調整会議に参加している。市の担当者とは、利用者の経済的問題や予防接種等の申請手続き、敬老会等に関する連絡等を取り合うなどの日常的協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同「身体拘束」を理解し身体拘束を行わないケアを心掛けている。どうしても行わなければならない場合は本人と家族に説明を行い理解して頂いている。	職員は鍵をかけない安全で自由な暮らしの大切さを熟知している。利用者が外出しそうな様子を察知し気持ちを抑えつけることなく安全面に配慮しながら一緒について行くようにしたり、そっと見守るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待は行われていない。これから高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ちより一層虐待について徹底していきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内でそれらのことを学ぶ機会はほとんどない。これからはそれらを活用でき支援できるように勉強会をもちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時理解されるまで契約について充分説明を行い同意書にサインと捺印を頂いている。契約改定時も同様に充分な説明を行い、同意書にサインと捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階入り口の「意見箱」を設置いつでも意見を投稿できるようになっている。家族の面会に家族から意見を聞き運営推進会議・職員会議などで意見を反映するようにしている。	利用者はもちろん、運営推進会議等の機会を利用して、家族からの意見や要望等を積極的に聴き、運営に反映するよう努力している。また、家族が来所し易い雰囲気や、気軽に意見を言える関係づくりに心掛けている。	利用者の日頃の生活の様子がわかるような情報や、家族の意見・要望が出やすい情報発信を工夫されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で、職員の意見や提案を聞いている。それらの意見や提案を出来る限り反映できるように他の職員とも話し合っている。	年1回個人面談をして職員の意見等聞く機会を設けている。また、日頃より、ミーティング等における職員からの提案事項をできる限り実現することで、誰もが意見を言える職場にする努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場内面接面談で意見を聞き職員一人ひとりのモチベーションを上げてきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を設ける為外部からの研修案内を回覧している。同法人内の別の施設での研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高齢者支援課主催のサービス連絡会で交流を図りサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中から困っていることを汲み取り不安を取り除く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等に耳を傾けながら関係作りに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要している支援を見極めその都度対応に務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は食事の準備や片付けなど職員と一緒にお手伝いをしていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の時間のある時は面会に来ていただけるようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他の入居者の面会の方に話し掛けられる様な事があっても仲間に入れてもらえる様をお願いしている。	正月等に家族のもとに外泊したり、知人等が継続的に面会に来やすいよう配慮している。また、家族が付添えない利用者には墓参りの支援をするなど、信仰の継続を含めた一人ひとりの生活習慣が尊重されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物をたたんだり、食事の配膳をしたり、朝4～5名で散歩にいたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者の家族より相談があった時は、相談に応じるようにしてる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や生活していく中で個人の要望を出来る限り実現方向に努力している。	日々の利用者とのかかわり(声掛け、様子観察)の中で、ニーズの把握に努めている。特に入浴時の対話で利用者との信頼関係を築き、本音を把握する上で大切にしている。日曜日の献立は利用者の意向で決めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を記入して頂いている。家族や生活歴の資料を参考に入居者の方の暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い会話や行動をよく観察して心身の状態、本人のペースに合わせ実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が機会ある毎に話し合い計画作成を実施している。	個々の利用者の担当介護職員が日頃の生活状況や家族からの情報等を収集して、原案作成を行い、計画作成担当者を含むチームで話し合い、計画を作成している。モニタリングは、毎月の定例会議内で行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別に記録して情報を共有している。介護記録やモニタリングに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に入居者に気配り、目配りをし、そのときのニーズに合わせて対応するよに務めている。ドライブ・買い物等がその日の様子により行われることが多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物、地域の方との挨拶や会話、またボランティアによる歌や踊りの観劇を通じ、暮らしに豊かさが創出出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所者はかかりつけ医を持ち受診の際には職員が付き添う。また医師とご家族が連携を保つ支援もしている。	事業所の協力医は、毎週往診に来る。他の医療機関に受診する場合についても、基本的に事業所で支援を行っている。但し、検査や医療行為への同意が必要な状況の場合は家族の同行を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの役割として、個々の利用者が適切な受診を受けられるように支援しているが、看護が必要な場合は、医療側に任せている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が安心して治療出来るように家族と連絡を取っている。入院時、なるべく多く訪れ、医師や看護師と話す機会を持ち、情報交換に務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り同意書をご家族より頂いている。看取り同意書を記入時、こちらからの十分な説明を行うと同時に、ご家族の意見も十分に聞いている。	看取りケアに関する事業所の方針書、利用者の意向を把握するための看取り支援確認書等が整備されている。また、医師の往診や系列事業所と兼務している看護師の応援が得られ、利用者および介護職員にとって心強い体制が構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えマニュアルを作成してある。防災訓練時に教育も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内防災訓練を年2回(5月、11月)実施。自治会長を通じ地域の防災訓練にも参加し、地域との協力体制を築いている。	防災訓練(職員研修および避難訓練)を年2回実施しており、地域との協力体制も構築している。但し、備蓄に関しては、十分とはいえない状況である。	既に災害時のための飲料水は、確保されている。今後は、備蓄食も確保することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導が必要な方を誘導する時「トイレ……」などと直接的な言い方はしないようにしている。入居者の方がしたことに対し否定的な言葉で対応をしないよう心掛けている。	面会簿に関する工夫等、個人情報の管理に気を遣っている。また、個々の利用者の尊厳に配慮した関わりを徹底するために、管理者や職員は、お互いの言葉遣い等についてチェックし合える関係を築いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しましょう」などこちら側から決め付けた言い方はせず、「どうですか？」など最後に”？”がつくような対応を心掛ける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人にあつた生活をし、強制する事無く支援し続けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時など服を着替える時には一緒に選ぶ。女性には口紅をつける事など自分で出来る事は自分でするよう支援してる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けは利用者が主となり、職員は見守り支援してる。食事は入居者と職員が雑談しながら一緒にテーブルで摂る。片付けも一緒に行く。	日曜日以外は、併設デイサービスと共通の厨房で調理しているが、盛り付けや食材の下ごしらえ(もやしのひげとり等)などは利用者も共に行っている。ホームの畑で栽培した野菜を食材として、皆で楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が足りない入居者には本人が一番飲みそうなものに工夫してる。(砂糖水等)食事が自己摂取できない入居者には、一部介助の支援を行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛けをし、出来ない方は職員が見守り介助する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレパターンを把握しトイレ誘導する。記録に基づき声掛けを実施し支援を行っている。	排泄能力やパターンの把握を丁寧に行い、個々の利用者の状況に最も適した排泄ケア用品の活用、トイレ誘導等の支援を行い、できる限りトイレもしくはポータブルトイレに座って排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を適時行い、軽い運動や散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて入浴してもらい、何日も入浴していないという事の無いよう支援している。	基本的に2日に1回、夏場には希望のある利用者には毎日入浴支援を行っている。入浴を楽しむことができるよう、ゆず湯やしょうぶ湯を提供したり、入浴拒否をする利用者には、気分を害さぬよう臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて体の調子を見て声掛け支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示・薬の説明書を見て理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きなことを一日一回以上は行うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くへの外出は出来るだけ実施しており、他への外出は年間の行事計画に基づき実施している。	できる限り毎日散歩に出掛け、地域住民との交流や近隣の託児所の子どもたちとのふれあいを楽しんでおり、「今日は、天気が良いのでコスモス畑へ」など、臨機応変に外出支援を行っている。また、家族が対応困難な利用者の墓参りを支援したこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のお金は事務所金庫で預かっており、本人が買い物したいときは一緒に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いろいろな行事便りを各家庭に郵送して。また、本人自ら電話を(職員見守りの中で)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に掃除をしたりして常に清潔を保つよう努力している。また、花等を飾り季節感を出している。	明るく清潔な共有空間となっている。また、“施設化したくない”という管理者の思いを反映し、壁面等の飾り付けは、ごく控えめで、日頃の様子分かる行事などの写真を掲示する程度にとどめられ、落ち着いた雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビ視聴する人、ソファで居眠りする人、昔話する人。皆それぞれ思い思い自由な行動をしているのでその安全を見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、思い思いの写真やぬいぐるみが飾られ、使い慣れた筆筒などが持ちこまれている。仏壇や冷蔵庫を持ち込む入居者もいる。	個々の居室を、利用者の安心感や入居前の生活の継続性に配慮したしつらえをするために、できるだけ使い慣れた家具等を持ち込んでもらい、利用者の意向を尊重した居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下にテスリを設置して。その人その人に合った事をしていただき、また安全かつ、生活の質を落とさないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276200207		
法人名	有限会社 ワイエイチ企画		
事業所名	グループホーム サンシテイ掛川	ユニット名	2F
所在地	静岡県掛川市杉谷南1丁目15番地の13		
自己評価作成日	平成22年9月18日	評価結果市町村受理日	平成22年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2276200207&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎朝朝礼にて理念を唱和し共有するようにしている。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り時、地域の参加者に対し、ホームの前で接待を行っている。地域の防災訓練にも職員、入居者共々、積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在は行われていないが、これから地域との交流の意味を含め、実践していこうと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会合で話された事については参考意見をサービス向上に目指している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々の交流はあまりないが特別なことが起こった場合随時連絡を取り協力関係を築けるように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同「身体拘束」を理解し身体拘束を行わないケアを心掛けている。どうしても行わなければならない場合は本人と家族に説明を行い理解して頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待は行われていない。これから高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ちより一層虐待について徹底していきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内でそれらのことを学ぶ機会はほとんどない。これからはそれらを活用でき支援できるように勉強会をもちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時理解されるまで契約について充分説明を行い同意書にサインと捺印を頂いている。契約改定時も同様に充分な説明を行い、同意書にサインと捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階入り口の「意見箱」を設置いつでも意見を投稿できるようになっている。家族の面会に家族から意見を聞き運営推進会議・職員会議などで意見を反映するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で、職員の意見や提案を聞いている。それらの意見や提案を出来る限り反映できるように他の職員とも話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場内面接面談で意見を聞き職員一人ひとりのモチベーションを上げてきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を設ける為外部からの研修案内を回覧している。同法人内の別の施設での研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高齢者支援課主催のサービス連絡会で交流を図りサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中から困っていることを汲み取り不安を取り除く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時などに若い頃の様子を聞いたり家での過ごし方を聞いたりしてプランを立てている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族とよく話をして、変化があればその都度対応を変えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは、声を掛け拒否が無いときは、一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	変化があればすぐ連絡し、一緒に考えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも面会の方も気がるに来て頂けるよう声掛けしている。墓参りにも出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方との会話には職員が仲介に入り関係作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者の家族より相談があった時は、相談に応じるようにしてる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や生活していく中で個人の要望を出来る限り実現方向に努力している。聞き取れた内容は、申し送り帳に記入し職員同士周知している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を記入して頂いている。家族や生活歴の資料を参考に入居者の方の暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い心身の状態の把握に努めている。1日の過ごし方や有する力に関しては本人のペースに合わせ実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	どのように暮らしたいか日常会話の中から聞き出すように努め、家族面会時には、家族の要望も聞くようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別に記録して情報を共有している。介護記録やモニタリングに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に入居者に気配り、目配りをし、そのときのニーズに合わせ対応するよに努めている。ドライブ・買い物等がその日の様子により行われることが多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物、地域の方との挨拶や会話、またボランティアによる歌や踊りの観劇を通じ、暮らしに豊かさが創出出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所者はかかりつけ医を持ち受診の際には職員が付き添う。また医師とご家族が連携を保つ支援もしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの役割として、個々の利用者が適切な受診を受けられるように支援しているが、看護が必要な場合は、医療側に任せている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が安心して治療出来るように家族と連絡を取っている。入院時、なるべく多く訪れ、医師や看護師と話す機会を持ち、情報交換に務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り同意書をご家族より頂いている。看取り同意書を記入時、こちらからの十分な説明を行うと同時に、ご家族の意見も十分に聞いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えマニュアルを作成してある。防災訓練時に教育も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内防災訓練を年2回(5月、11月)実施。自治会長を通じ地域の防災訓練にも参加し、地域との協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの違いを尊重・挨拶や呼びかけさりげない介助を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や買い物等、入居者が希望を表したりすることを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを保ちながら、見守り、一緒に行う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時など服を着替える時には一緒に選ぶ。職員が介助しすぎないように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けは利用者が主となり、職員は見守り支援してる。食事は入居者と職員が雑談しながら一緒にテーブルで摂る。片付けも一緒に行く。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや水分摂取を把握している。、		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の手入れ、食後のうがいは、日常的に声掛けをしている。必要な方に対しては、見守りや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレパターンを把握しトイレ誘導する。記録に基づき声掛けを実施し支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を適時行い、軽い運動や散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて入浴してもらう。何日も入浴していないという事の無いよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて体の調子を見て声掛け支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示・薬の説明書を見て理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を唄ったり塗り絵をしたりして、入居者が退屈しないようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くへの外出は出来るだけ実施しており、外出は年間の行事計画に基づき実施してる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のお金は事務所金庫で預かっており、本人が買い物したいときは一緒に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じ職員が付き添い、家族に電話をしたり、ポストに手紙を出しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に掃除をしたりして常に清潔を保つよう努力している。また、花等を飾り季節感を出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にて裁縫したり、テレビを見たり他の入居者と話しをしたり、ホールでは、皆んなで歌を唄ったり塗り絵をして、過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、思い思いの写真やぬいぐるみが飾られ、使い慣れた筆筒などが持ちこまれている。仏壇や冷蔵庫を持ち込む入居者もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下にテスリを設置して。その人その人に合った事をしていただき、また安全かつ、生活の質を落とさないようにしている。		